

全労連青年部ニュース YOUTH TOPIC



つながる・たたかう・支えあう青年部を

ジhttp://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/

ブログhttp://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower

- 被爆70年を転換点に k爆禁 IF 2015年 世界大学

2015年8月4日~9日にかけて広島・長崎で原水爆禁止2015年世界大会が開催されました。被爆70年の節目となる今大会では青年分科会、RLZともに広島・長崎の両県での開催となりました。全国各地から青年組合員が参加し、青年分科会では被爆者証言聞き取りのグループリーダー、RLZでは企画運営や警備の任務を務めるなど多くの企画にかかわりました。

RLZ2015 広島 〜会場に響く平和を求める青年の声〜



8月4日に開催された Ring!Link!Zero!2015 広島「Ring!Link!Zero2015 in 広島・長崎―今こそ、戦争やめろ 核兵器なくせ!の声を―」では、日本原水爆被害者団体協議会の田中煕巳(てるみ)事務局長へのインタビュー(聞き取りプロジェクト)が行われ「戦争は突然起こるものではない」「どうやって戦争が大きくなるのか私たちは学ばないといけない」と戦争する国づくりの動きに警鐘を鳴らし、「お互いを愛することが戦争を防ぐことになる」と語りました。核兵器で平和を保てるという「核抑止力論」の考え方についての質

問には、「それは間違いで『神話』だ」と強調しました。

国内外の青年のスピーチでは広島の青年が被爆者の方と署名行動にとりくみ核兵器禁止条約の交渉開始を求める「核兵器全面禁止のアピール」署名を 2000 筆集めたことを紹介、「被爆者と連帯していくことは大事だ」と語りました。またNPT再検討会議に合わせて行われたNY行動に参加した大阪の高校生は、戦争法案反対のデモで自分も声を上げていると語りました。平和行進を歩いた海外の青年たちは、「憲法 9 条は日本だけでなく世界にとっても大事だ」と語り、平和行進を広げていくことや今後つながっていてくことで運動を広げよ

う会場に呼びかけました。その後「戦後・被爆 70 年 青年談話」が満場の拍手で採択されました。フィナーレでは各地のコールが交流され、千葉、福岡、愛媛と海外のコーラーのリードで「戦争法案絶対反対!」「憲法守れ!」「勝手に決めるな!」「民主主義って何だ!」「戦争やめる!」「核兵器なくせ!」と参加者が声を上げました。

参加者からは「被爆者の話が改めて戦争の恐ろしさを知ることができた」「他国の人や他県の人の思いを聞



くことで私自身もっと行動していくべきだと感じた」と感想が寄せられました。

青年のひろば in 広島 ~被爆者一人一人に心を寄せる~



8月5日、第11分科会青年の広場が行われ、被爆70年、安倍政権が 被爆者・国民の声を踏みにじり戦争する国作りに暴走する情勢の基 「戦争の悲惨さを若い人たちに聞いてほしい」「伝えられるうちに伝え たい」という52名の被爆者から約250名の青年が証言を伺うことがで きました。

90歳を超えて初めて証言して下さった被爆者の方は「辛い話だから

ずっとしたくなかったけど話す人が少なくなる中で、今話さないと」と話してくれました。「友人と一緒に家族の死体を焼いた」「助けを求めている人を横目にまったく助ける気すら起きなかった、今でも思い出すと悔しい」と当時の悲惨な状況をはじめ、「被爆者が 10 万人いれば被爆体験が 10 万通りある。自分はその一部でしかない。たくさんの話を聞いて被爆者について学んでほしい」という訴えを伺うことができました。

原爆の投下で、家や友人、家族を亡くした辛い思いや、生き残っても"元気な赤ちゃんが生まれるだろうか"など常に不安を抱えながらの生活など一人一人の経験に心を寄せる分科会になりました。

243 枚寄せられた感想文には、「未来のために自分がやらないといけない、知らないといけないとわかるきっかけになった」「今の私たちが平和な暮らしができるのは、多くの犠牲者がいてこその今だと思った」「原爆は改めて恐ろしいと思ったし、鳥肌が立つほど悲しくなった」「被爆者の話を聴くことで、感覚的に原爆は絶対にあってはならないという思いになった。理屈ではなく本能的に人間が感じることはそう簡単には変えられないしとても大事にすべきこと。これこそが直接話を聴くことの意義だと思う」「被爆者の思いを聞いたからこそ、誰かに発信していきたい、行動しなければいけない」など、証言をしていただいた方への感謝の気持ちと、この経験を伝えていくという決意が寄せられました。

RLZ2015 長崎 ~長崎の街に平和の灯を~



8月7日「Ring!Link!Zero2015in 広島・長崎一今こそ、戦争やめる 核兵器なくせ!の声を一」では18時30分からサイレントデモを行われました。デモは市民体育館を出発し賑橋、アーケードを通り再び市民体育館に戻るというコースで青年を中心に約500人が参加。参加者は電子キャンドル、プラカードなどを持ち『イマジン』をバックミュージックに「武力による平和か、武力によらない平和か――未来をつくる私たち青年は、70年前の過去に学び、被爆者たちも歩

んできた平和の道を選びたいです。」「今こそ、戦争やめろ 核兵器なくせ!の声をさらに大きくするときです。未来を私たち青年の声と行動でつくっていきましょう。そして今この場から大きな声を一緒にあげていきましょう。」と沿道に訴え、参加者らのリレートークもまじえながら長崎の街を歩きました。

参加者からは「沿道から手を振ってもらえた」「あまりやったことがないことなので新鮮だった」 「夜のデモははじめて参加したが楽しかった」などの感想が寄せられ、デモのゴール地点では参加 した青年が集まって記念撮影を行うなど、各地の青年がつながる場にもなっていました。

青年のひろば in 長崎 ~核兵器廃絶への生き方を学ぶ~

8月8日約430名の参加者(うち約8割が原水 爆禁止世界大会に初参加)が集まり、36グループに 分かれて44人の語り部から証言を聴きました。オー プニング企画では、長崎総合科学大学の大矢正人名 誉教授の解説で、「原爆きのこ雲」と「原爆投下から 数か月の時期の長崎の街の様子と山口仙二さんと谷 口稜曄の様子」の映像を視聴後に、谷口稜曄さんが 登壇し青年に語りかけました。

「『くちびるがただれて、溶けているみたいだった』



『全身の皮膚がはがれ、赤くなっていた』という生々しい話を聞き、原子爆弾の恐ろしさを痛感しました。今回の話を聞き、やはり戦争は絶対に繰り返してはいけないと強く思いました」「話をどう受け止めて自分が何をしていくかが大切だと思います。核兵器をなくそうという生き方を私もしていきたい」――参加者感想文には、被爆者が語る戦争や原爆による惨状を受け止めた気持ちや戦争に反対し核兵器を廃絶する生き方を選び取る決意が数多く書き込まれていました。

R L Z 2015 アピール (戦後・被爆 70 年 青年談話)

2015年8月1日時点

70年前の夏、広島・長崎に落とされた原爆は、何十万という市民を殺傷しました。生き延びた被爆者は今も被爆の後遺症に苦しめられています。

戦後・被爆70年の今年、私たちは被爆地に集まり、筆舌に尽くしがたい体験をしてきた被爆者の目を見て、その肉声に耳を傾け、「あの日」のことに思いをはせます。体験を直接聞ける最後の世代である私たちは、被爆者から被爆の実相と「再び被爆者をつくるな」という願いを受け取り、核兵器をなくしたい思いを強くしています。

世界ではここ数年で、核兵器使用の「破滅的な人道的影響」についての議論が大きく広がっています。そこには被爆の実相を語り広げてきた被爆者を先頭にした日本の原水爆禁止運動の成果が結実しています。

今年の核不拡散条約 (NPT) 再検討会議の場でよびかけられた、核兵器は残虐であり禁止・廃絶すべきだとした「核兵器の人道的結果についての共同声明」には、NPT加盟国の8割にあたる159カ国が賛同するなど、世界の圧倒的多数の国が核兵器をなくそうとしています。

しかし、唯一の被爆国である日本政府はアメリカの核兵器の「抑止力」という脅しを頼りにし、 核兵器の存続に加担しています。

日本は第2次世界大戦でアジア諸国を侵略・植民地支配し、多大な被害と損害を与え2千万人をこえる命を奪いました。300万人をこえる日本国民の命も沖縄地上戦や本土空襲、広島・長崎への原爆投下などで奪われました。

戦争体験者・被爆者はこれらの悲惨な体験を経て「武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」憲法9条という道を選び取りました。そして日本はこの70年間、戦争をしない国として武力によらない活動で世界からの信頼を得てきました。しかし今、安倍政権は「平和」「安全」の名のもと、海外で他国の戦争に参加できるようにする「戦争法案」を強行に成立しようとしています。武力によって脅され、傷つき、苦しむ人の上に成り立つ平和など、私たちは選びたくありません。未来をつくる私たち青年は、70年前の過去に学び、被爆者たちも歩んできた武力によらない平和の道を選び取りたい。

「戦争法案絶対反対!」「憲法守れ!」「勝手に決めるな!」「民主主義って何だ!」――全国各地で戦争はしないと決めた憲法9条を踏みにじり、被爆者・青年・国民の声に背く安倍政権の暴挙を許さないと、「戦争法案」反対の青年・国民の声と行動が広がっています。未来をつくる私たち青年が過去の惨禍と向き合い、戦争も核兵器もない社会に向けて、今こそ、戦争やめる 核兵器なくせ!の声をさらに大きくするときです。

これから生まれてくる後世の人たちが、私たちのことを「戦後80年、90年、100年をつくった世代」「核兵器をなくした世代」と呼ぶような、そんな未来を私たち青年の声と行動でつくっていきましょう。そして今この場から大きな声をあげていきましょう。

「戦争法案絶対反対!」「憲法守れ!」「勝手に決めるな!」「民主主義って何だ!」「戦争やめろ!」「核兵器なくせ!」

2015 年 8 月 リング!リンク!ゼロ参加者一同